

学校教育目標		
地域に生きる南台の子		
知 かしこく	徳 やさしく	体 げんきよく

令和4年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）	
学び合って かしこい子に 学習をつなげる	
・学習のきまりの徹底	・授業の充実（考える授業・かかわり合いながら）
・家庭学習等との関連	→ 授業と家庭学習、タブレット学習、補充学習等の連動

各教科の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な学びになるように授業改善をしていき、学びに向かう力を育てる。 個に応じた指導を充実させ基本的な知識・技能を身につけると共に、問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。

指導の重点（本校の捉える「確かな学力」）
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付け、それらを活用して問題解決していく学び方を学び、思考力・判断力・表現力等をはぐくみながら学ぶ楽しさを味わい、自ら進んで学ぼうとする力を育てる。

総合的な学習の時間の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、解決していく探究的な学びを通して、自分で問題を解決していく力やものの見方・考え方を育成する。

特別活動の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 相手を認める聴き方・話し方等を知り、自治的活動につながる学級活動 児童の集団の話し合い活動を大切に、互いのことを考え、認め合う児童会活動

道徳教育の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 毎月の重点項目を設けて学校全体で道徳科授業をすすめる「南台ハートの日」の実施 豊かに関わり合うことをとおして、地域を大切にできる人材の育成

キャリア教育の重点
<ul style="list-style-type: none"> 多様な立場・考えを理解し、進んで働きかける。 自分のしたいことやできることを理解したり、自分を律したりすることができる。 集団生活や学習、多様な場面で課題を発見し、計画的に解決しようとする。 働く意義や自分の役割を理解し、主体的に行動する。

生活指導の重点
<p>「あいさつ」「あつまり」「あとしまつ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習や生活、あらゆる場面で適切な言葉を使って人と交流する力を育てる。 ②時刻を意識して生活したり、廊下歩行の仕方を気をつけたりし、共に生活を送る人のことを考えて行動する力を育てる。 ③校内・学級内の環境を整え、安全に安心して生活を送れるようにする。

授業改善の視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	中学校との連携	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> かかわりながら学ぶことで、学力を身につけるとともに、よりよい人間関係をつくる。 ICT等による個に応じた指導や見通しと振り返りにより主体的な学びを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な放課後学習を行い、基礎基本の定着をはかる。 夏季休業中にも「補充学習（寺子屋南台）」の学習を行う。 教科の関連を踏まえ、指導計画を考える。 ICT機器を意図的・計画的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席表などを活用し、子供を見取り記録していく。 評価を次時の学習に活かし、指導と評価の一体化を行っていく。 評価の観点についてそれぞれの観心の趣旨を共通理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の心理的安全性を高める取組を行う。 課題を自分事として捉え、協働的な学習を積み重ね、主体的に学ぶ学習過程を工夫する。 他者の考えを聴く力と自分の考えを伝える力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗り入れ指導を通して、互いの指導方法や児童・生徒の実態を把握し、学習の定着を図る。 一部教科担任制等を実施することで、同単元を繰り返し指導することのよさを感じるとともに、評価の工夫・改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針に基づいた学校の考え方を保護者や地域に伝え、共有し、地域と共に子供を育てるようにする。 地域の人材を活用した授業を公開していく。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用
<ul style="list-style-type: none"> 日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の児童の実態を把握する。 放課後補充教室にて、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。 夏季休業中に補充学習において、全学年のサポートを行う。

2 各教科における授業改善プラン

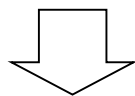
(1) 国語科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで音読しようとする児童が多い。 ・正しい口形を意識した発音をすることは個人差がある。 ・文字の学習において、字の形を捉えることができるようになりつつあるが、画の長さや方向等はまだまだ個人差が大きい。 ・文章の中で「は、を、へ」などの助詞の使い方を習得できていない児童もいる。自分の思いを文に書くことが苦手な児童が少なくない。 ・話を聞く時に集中が続かず、最後まで話を聞くことができない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人やグループ、クラス全員等読み方を工夫したりしてより音読を楽しめる場を設定する。 ・音読の様子を動画で撮影したり、文字と音を対比させたりして、自分の発音を振り返ったり、文字とすりあわせたりする機会をもたせる。 ・教室内に平仮名50音表を掲示し、いつでも正しい字形を確認できるようにする。日常生活の中で、相手意識をもたせる活動を設定し、日常の書く場面でも相手や自分が読みやすい文字を書くよう心がける。書き順の定着のため、板書の際に教師の手元を見せたり、ひらがな表等で書き順を確認させたりする。 ・言葉を文末まで話す経験を重ね、適切に助詞を使えるよう、言語環境を整える。文を書いた後は、自分で声に出し読み返すことで推敲する習慣を付けさせる。共通の生活体験を題材にして表現を交流し合う等、表現が広がるよう活動を工夫する。 ・話を聞く時の姿勢を整える。教師や友達の話を書くのが嬉しい、学びが広がり楽しいと思える体験を重ねることが聞く意欲につながる。日々の授業から話題を明確にした上で、児童の多様な発言を活かす話し合い活動の場作りを努める。

現状分析		授業改善プラン
区学力調査の結果の分析		具体的な授業改善案（手だて）
2年	<p>どれも目標値を超えているため、基礎は定着していると考えられる。しかし、「言葉遊びを考える」「文章を書く」「文章を読み取る」の問題は平均値が低いなど、思考・判断・表現を問われる問題に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、聞くだけでは理解することが難しい児童に対して、視覚的に理解できるようにする。 ・ペアやグループワークなど、対話の時間を多く取り入れ、教員から与えられた課題をこなしていくだけではなく、それを表現する機会を増やす。 ・毎週の宿題で日記を課し、自分の考えを表現する機会を増やしていく。 ・2年生の知識・技能を定着させるために、漢字や主語述語などの練習の機会を多く取る。
	授業における課題	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や問題文を理解することができない児童がいる。よく読まず、自分の解釈で捉え解いてしまう。 ・文章を書くことに慣れていない。思いや考えを膨らませて書くことができない。自分の考えを文章に表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れることにより、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりする中で、自信をもって意見を伝え合う土台をつくる。 ・短作文ノートなどを活用して、日常的に文を書いたり漢字を使う機会を意識的に作る。 ・定期的な漢字テストや漢字先生（一人一文字担当し、調べてきたことを発表する）を通して、日常的に漢字に触れ、興味関心を高めると共に習熟を図る。 ・課題によって、終了時刻や目標時間を設定し、決まった時間集中して取り組む習慣をつける。 ・図書室を積極的に活用し、読み聞かせや本の紹介を司書と連携して行い、読書の幅を広げ。機会を増やす。
	区学力調査の結果の分析	
	<p>全体的には目標値を達成しているが、主体的に取り組む態度の数値が低い。項目別にみると、漢字や言葉の習熟が大幅に下がっており、既習事項が身に付いていないことがわかる。また、書くことについても数値が低くなっている。他にも発問や問題文を理解することができない児童がいる。よく読まず、自分の解釈でとらえ、解いてしまう。</p>	
4年	授業における課題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や課題に対して時間内に終わらない子が一定数いる。 ・既習の漢字が定着していない。 ・書くことに苦手意識がある子が多い。 ・自分の考えや気持ちを表現することに抵抗感がある子が多い。 ・読書の習慣はあるが、読書の傾向が好きな本や知っている本に偏りがちである。
	区学力調査の結果の分析	
<p>目標値よりやや高い値になっている。「我が国の言語文化に関する事項」と「書くこと」の領域が目標値より低い。また、観点別正答率では、「知識・技能」は目標値より高いが、「主体的に学習に取り</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学べるよう、児童一人一人の学習感想や疑問を基に授業を組み立てる。考えたい問いを提示できるようにする。 ・全体で話し合う時間、個人で考える時間など、め

	<p>組む態度」が目標値より低い。61～70点、81～90点までの児童の割合が多い。20点以下の児童もいるので、学び残しが無いようにしていく必要がある。</p> <p style="text-align: center;">授業における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲や集中が持続しない児童が多い。 ・漢字を書くことが定着していない児童が多い。 ・長い文を書くことに抵抗があり、途中で諦めてしまう傾向がある。 ・叙述を基に文章の内容を問う問題では、なんとなく理解しているようで、根拠となる文や理由を説明できない児童がいる。 ・読書の習慣は身に付いている児童と身に付いていない児童がいる。 	<p>りはりを付けて学習できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に漢字の小テストをして、学習内容の定着を確認する。繰り返し確認する機会をもち、定着を促す。 ・文の書き方（構成）を、読みの学習を通じて理解させ、自分で書く際に生かせるようにする。書いた文はペアやグループで紹介したり、全体に向けて発表する機会をもち、成果を確認できるようにする。 ・日記の指導を行い文を書く機会を日常的に設定する。 ・図書指導の際に読み聞かせをしたり、本を紹介したりして読書の機会を広げる。
5年	<p style="text-align: center;">区学力調査の結果の分析</p> <p>平均正答率は目標値と変わらない数値だが、目標値を達成した児童は学年の51%である。能力の2極化が顕著である。「基礎」は7割正答しているが、「活用」になると正答率は5割になる。3観点で見ると「知識・技能」と「思考・判断・表現」に差がなく両方6割の正答率だが、「主体的な学習」は5割と最も低い結果となっている。「国語が楽しい」という気持ちを高め、能力向上を図ることが必要である。</p> <p style="text-align: center;">授業における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力が低く、途中で手を抜いてしまう。 ・叙述を基に文章の内容を問う問題では、なんとなく理解しているようで、根拠となる文や理由を説明できない児童がいる。 ・自分の考えを表現する子としない子の差が大きい。 ・文の形体が乱れている。 ・教科書を見本にすれば作文することができるが、自分なりのアレンジを加えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・50問テストを学年のイベント化し、興味関心を高めるとともに習熟を図る。 ・個で考える時間を確実に設け、「考える」という活動に慣れさせる。 ・ペアやグループ活動を多く取り入れ、必然的に自分の意見を表現する場を作る。 ・漢字の宿題で短文作りを行い、日常的に文を書くようにする。 ・音読の宿題を課し、正しい構文に慣れさせながら、言語や表現の習得を図る。 ・製作物に対する一人一人への声かけの充実を図る。
6年	<p style="text-align: center;">区学力調査の結果の分析</p> <p>区の目標値を達成しているのは6割。問題全てを時間内に解き終えられず、選択問題での間違いが多いのが1組。問題全てを解き終えるが、全体的に正答率が低く、特に短答・記述式で目標を下回っているのが2組。学年全体としては目的に応じて構成を考えたり、簡潔にまたは詳細に書いたり、順序よく表現豊かに自分の考えを書き表すのが苦手である。</p> <p style="text-align: center;">授業における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語を学ぶことに対する意欲が低い。 ・読書への関心が低いこともあり、語彙が少ない。 ・以前学習した漢字が定着していない。 ・スムーズに長文を読めない。 ・物語や他者の考えなどに対し、自分の考えをもてない。 ・考えを書いて表すことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の宿題で多様な表現に触れ、言語を習得したりや表現の幅を広げたりできるようにしていく。（教科書の教材・詩・俳句等） ・長文の読み取りでは必ず文中の単語の意味理解を行い、正しく読み取ったり、知った単語を日常や文中で活用したりできるようにしていく。 ・漢字の学習に抵抗が出ないようにやり方を児童と相談しながら決めている。（タブレット活用・量の調整） ・短作文のワークシートを活用し、接頭語の使い方、理由の書き方、文末の揃え方など身に付けられるようにしていく。 ・学習のまとめで書いたものを共有し、互いの考えに対する自分の考えを伝える取組を入れていく。 ・本を紹介し、読書活動に興味をもてるようにしていく。



現状分析を受けて、6年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に対する興味を広げ、読み書きの基礎基本の力を身に付けられるよう、自分の考えを書く機会を大切にする。 ・言葉の意味を理解し、文章から根拠や理由をはっきりさせる。それを基盤にペアや全体で話し合いをし、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・図書室を積極的に活用し、本を紹介したり、利用したりすることで読書活動を充実できるようにする。 	

(2) 社会科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
3年	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思うことや調べたいことの中から学習問題を見出すことはできるが、単元を通して意識を持続することが難しい。 調べてわかったことを自分の言葉で表現することが難しい。 資料提示の仕方や児童にとってどの程度の量・質が分かりやすいものなのかなど、適切な資料を選ぶことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程を明確化することで、見直しをもって学習を進めることができるようにする。 単元を通して、疑問を交流したり、調べたことや調べたことから考えたことを伝え合ったりして対話的に学習を進めることで、問題意識の持続や学びを深めることにつなげる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> どの資料を準備すると児童の思いに応えることができるか、指導上難しいと感じる。 児童の言葉で学習問題を作ることが難しい。 教科書や資料から分かったことや板書を書き写すことはできるが、自分の言葉でまとめたり、関係図を書いたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で考える際に必要な資料は、数を絞り、分かることを挙げたり、みんなで予想をしたりして考えられるようにする。 個別に考える際に必要な資料はいくつか用意したり、インターネットのサイトを示したりして主体的な学習を促せるようにする。 どのようにまとめれば良いか分からない児童がいるので、指導するところは分かりやすく説明しながら指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 国土の特色や産業の現状に興味をもっている児童が多い。 デジタル教科書で実際の映像を見ることで、国土の特色や産業の現状について具体的なイメージをもつことができている。 調べて分かったことから、自分なりのまとめをしたり、新たな問いをもったりすることが苦手である。 単元のまとめ、1時間の学習のまとめを自分の言葉で書き表すことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTと本や資料集等をバランスよく活用していく。 個で考える時間を確実に設けたり、分かりやすい情報を用意・提示したりすることで、思考し、考えをもたせられるような学習活動を教師が意識して行う。 まとめ等は穴埋め式にし、表し方について段階的に学ばせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習に対する意欲が低い児童がいる 時事問題への関心が薄い児童が多い 歴史に関心のある児童は一部で、有名な人物をあまり知らない 資料の表面的な読み取り（変化・特徴を捉える）はできるが、「そこからどのようなことが言えるか」を考えることが苦手である 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ学ぶのかということを考えるようにする。そして、単元によっては、自分や現代とどんな関係つながりがあるのかを考えさせるようにする。 日頃から時事問題を話題に出すなどして、自然に社会と自分との関わりに意識が向くようにする 読み取った情報を生かして、それから考えられることが何かを思考するような学習と、思考の仕方を学べるような学習活動を教師が意識する。

現状分析を受けて、4年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none"> 問いをもったり、問題意識を持続させたりするために、一斉授業の時間をなるべく少なくし、「自分で調べる」という活動を増やしていく。予想を立てたり、つながりを考えさせたりするなど、個人がしっかりと考える時間を設定する。 分かったことを自分の言葉で表現する力を高めるために、穴埋め式から少しずつ自分で書く範囲を広げていくなど段階的に文章を書くようにする。なるべく毎時間まとめを自分たちで書いて練習をし、その表現方法に慣れさせる。

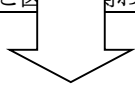
(3) 算数科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面をイメージし、理解する力に大きな個人差がある。問題文から自分で必要事項を取り出し判断し立式することに課題がある。 数の概念の獲得状況に個人差があり、10までの数の合成・分解がまだ身につけていない児童もいる。 急いで問題を解いて、加法なのか減法なのか見落とす児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や簡単な図を見たり、自分で描いたりしてイメージを広げる活動を取り入れる。既習の問題を振り返られるように掲示を工夫する。また、日常生活の場面と学習がつながりをもてるようにし、学習が生活に生きる経験を重ねさせる。 個人差があるため、ブロック等を使って考える、指を使って考える、簡単な図に描いて考える等、自分の段階にあった補助方法の活用を児童が選択できるように、各教室に教材や教具を常備し、いつでも使えるようにしておく。 「はやく、かんたん、せいかく」等、よりよい算数的処理をめざせるよう意識付ける。

現状分析		授業改善プラン
区学力調査の結果の分析		具体的な授業改善案（手だて）
2年	<p>概ね知識・技能は定着しているが、繰り上がり・繰り下がりの問題を苦手としている児童がいる。「形」「時計」など測量や抽象的な問題に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的な問題を具体物を使ってイメージをしやすくする。 習熟度別少人数授業や、デジタル教材を活用して、個別最適な学びを目指す。 宿題などでドリル教材を繰り返し行うことで、基礎の定着を図る。
	<p>授業における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「長さ」「水のかさ」「時刻と時間」など、量感・単位換算を苦手としている児童が多い。 問題を読み取ることを苦手とする児童が多い。問題の場面をイメージすることが難しい。問題を理解することに個人差がある。 	
3年	<p>区学力調査の結果の分析</p> <p>目標値は概ね達成できている。一方で、データの活用の数値が低く、長さについても大幅に数値が下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題によって、終了時刻や目標時間を設定し、決まった時間集中して取り組む習慣をつける。 習熟度別のクラスを設定し、児童自身が自分に適したクラスを選ぶことで、自分の実力を測れるようにするとともに、児童の実態に合わせた指導をする。 問題場面を丁寧に読み取る経験をし、図や表や式や言葉で表したり、友達と交流する中で理解を深めたりする時間を意識的に設ける。
	<p>授業における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題や課題に対して時間内に終わらない子が一定数いる。 問われていることが読みとれてなかったり、勝手な解釈で問題の答えを導くことがある。 	
4年	<p>区学力調査の結果の分析</p> <p>区の目標値を達成しているのは6割強。しかし、達していない児童との点の開きが大きく、個に対応した進捗や支援の必要がある。「□を使った式」、「時刻と時間」、「円と球・三角形」の問題で誤りが多く、知識、技能の底上げが必要である。「長さ・重さ」では、単位の換算で誤りが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元や1授業時間の目当てを明確に提示する。 児童が自分の考えを思考できる時間を10分以上確保する。 考えの表し方を指導する。(絵、図、表、文章、式) また、考えさせる前における程度の見通しを持たせるために、全体で解説法を確認する時間を設ける。 図形の学習では、全学年での学習内容の振り返りを丁寧に行い、知識・技能の定着に努める。 単位換算の学習がある単元では、単位相互の関係を理解しやすいよう、具体物を用いて量感を確認するとともに、他の単位との混乱がおきないようにプリントなどを用いて繰り返し取り組ませる。
	<p>授業における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを様々な方法で表すのが難しい。結果ではなく過程に目を向けさせたい。 計算スピードの開きが大きい。 問題の意図を理解できず、間違ってしまう児童もいる。 	
5年	<p>区学力調査の結果の分析</p> <p>総合的に見ると、区の平均と相違はないが、図形領域とグラフの問題については、目標値を下回っている。特に、折れ線グラフの読み取りに関しては半数ができていない。また、面積や対角線など、5年生になって活用が必要な内容の定着が図れていない児童が比較的多いことが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの単元でも、デジタル教科書を活用し、関連する既習事項を視覚化して共有することで、知識・技能についての定着度を高めていく。 全体への発表の場面では、大型ディスプレイを活用し、ノートを見せるだけでなく、操作を通して伝えさせることで、発表することの楽しさを感じさせるとともに、考えの共有が行いやすくなることによる活発な意見の交流にもつなげる。
	<p>授業における課題</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の振り返りに授業時間を割くことが多い。特に、図形領域では、コンパスなどの用具の扱い方、図形の名称等の用語の確認が必要である。 自分の考えを書いて発表することへの抵抗がある児童が多い。 筆算で計算することに煩わしさを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えが出ることの喜びやうれしさを繰り返し感じさせることで、計算への抵抗を少しずつ減らしていく。
6年	区学力調査の結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係の単元では、必ず数直線図を書かせている。 学力の定着度が低い児童には、問いの数値を簡単にするなどの対応を行っている。 授業の進捗に合わせて家庭学習を出し、振り返りを行わせている。
	<p>区の目標値を達成しているのは6割。問題全てを時間内に解き終わることのできない児童が双方の学級に複数名いる。基礎的な計算、公式を使った計算はできているが、整数・小数・分数のつながり、2量の関係(割合・単位量あたり)・複数の数を使った計算(平均)に関する問題を解くことが苦手である。</p>	
	授業における課題	
	<ul style="list-style-type: none"> できているのに考え方の説明や解答を躊躇する 文章題になると途端に分からなくなったり、立式に迷ったりする(国語力の低さが影響) より良い手立てを指導してもテストなどで活用することが苦手である 折り紙を折る・切るなど図形に関わる日常経験が乏しい 	



現状分析を受けて、6年間を通して算数科で身に付けさせたい力とその方策

- ・少人数指導や放課後補充学習や家庭学習などを通して、基礎基本の定着を図る。
- ・問題場面を丁寧に読み取ったり、図や言葉や式や数直線など問題解決のための手段を学んだり、それらを使って解決したりすることを通して、自力解決のために試行錯誤する態度や自信をもって取り組める土台を作る。
- ・自分の考えを友達と交流したり、全体で共有したりすることを通して、理解をより深め、学び合う姿勢を育てる。
- ・発展的な問題や思考力が必要な問題にも触れる機会を作る。

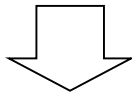
習熟度別少人数指導の充実に向けて

- ・日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の指導を行うとともに児童の実態を把握する。
- ・レディネステストを行い、児童の実態を把握するとともに、児童自身が自分の力に合ったクラスを選択できるように支援し、クラスを編成していく。
- ・放課後補充教室や夏季休業中に補充学習において、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。

(4) 理科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点を知らず、数値を記載したり、様子を記したり具体的に記録できるようになってきた。 ・実験をすることが目的になってしまい、実験の結果や考察へと思考が繋がらない児童がいる。 ・考察の書き方が理解できていない。 ・自分の実験結果に固執してしまい、一般的な結果として事象を受け入れられなかったり、思い込んでしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容によって、ICTに成長の記録や実験結果、学習の過程を記録し、繰り返し確認できるようにする。 ・考察の書き方を例示したり、部分的に空欄にしたりするなど、段階に応じた支援、指導をする。 ・結果や考察を交流する時間を設け、相互により表現や伝え方を学ぶと共に、様々な考え方を受け入れ、全体として結論を導く流れを定着させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験をもとに予想を立てることが難しい児童がいる。 ・実験から結果、考察の学習の流れが、まだ定着していない。考察にどのようなことを書けばよいのか悩む姿も見られる。 ・知識として結論を知っている児童もおり、問題をもつ場面や実験の場面で、結論に寄せようとしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入として必ず「体験すること」から入り、そのときの体験から予想を立てられるようにする。 ・問題づくりから、予想、実験、結果～と毎単元流れを意識しながら授業を行う。また、黒板にもその流れが分かりやすいように前段階・前授業での事柄も提示したり板書したりする。加えて、ノート指導を行う。 ・実際に実験を行うことの意義を伝えていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に実験に取り組んでいる。 ・実験器具の名称や正しい使い方が身に付いていない。 ・考察と結論の違いに混乱している児童がいる。 ・実験結果から考察や結論を導き出す能力に大きな個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具の名称や注意点については授業で扱うごとに確認したり、補充プリントを活用したりして適宜扱い方に意識が向くようにする。 ・穴埋め式で表現や意味の違いを理解させる。違いを説明しながら、繰り返し書く練習を重ねる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果と考察を混同する、考察から結論が言い表せないなど、用語の理解や学習過程の理解が乏しい。 ・学習問題を立てるのが苦手な児童が多い。 ・実験器具の名称や正しい使い方が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果と考察の違いを明確にすることで、学習過程の理解をさせる。 ・学習問題の立て方を理解させる。必要があれば穴埋めにするなどして問題を立てる練習をする。 ・器具の名称や注意点については授業で扱うごとに確認したり、補充プリントを活用したりして適宜扱い方に意識が向くようにする。

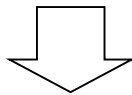


現状分析を受けて、4年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策
<p>3年生の段階から問題解決学習の過程をしっかりと学ばせることが必要である。今何のために予想や実験をしているのかを明確にしながらか学習を進めていく。また、各学年での科学的な考え方の重点を確認し、学年が終わるまでに確実に身につくよう指導する。さらに、積極的にICTを使用する。特に、観察・実験の記録や結果の共有で活用し、考察の際の材料としていく。理科の問題解決学習を基に、他教科・領域へ活用することも目指す。</p>

(5) 生活科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none">活動に対して、前向きに活動できる児童もいれば、受け身になっている児童もいる。児童自らが思いや願いをもち、学習活動を進めるまでには至っていない。生活科の学習とはなにか、児童や保護者に十分に伝わっていない。近くの友達同士で交流はしている児童もいるが、その交流が学級に広まり、次の活動の方向性を決めるまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none">年間指導計画を練り、児童の思いや願いが実現しやすいような活動の場や環境設定を充実させる。各クラスに簡単な政策をいつでも繰り広げられるような道具を備える。生活科の学習で育てたい力を担任同士が共通理解をし、幅をもたせた計画や準備ができるようにする。スタートカリキュラムを工夫し、学級の共通の願いのもとに制作や表現を伴った活動を行い、生活科の学習を開く単元として位置づける。関わり合いが生まれるメンバー構成や場の設定などを考える。
2年	<ul style="list-style-type: none">活動に対して、前向きな児童が多く、自らが思いや願いをもち、学習活動を進めている。生活経験に差があり、自分から主体的に活動を進めていく児童と、話を聞いたり周りを見たりしながら進めていく児童がいる。	<ul style="list-style-type: none">児童の思いや願いを基に単元の活動を組み立てていく。グループでの活動を多く取り入れ、生活経験に差がある中でも、児童の協同的な学びが行われるようにする。調べ方の技能を身につけさせるために、図書館資料の活用やインターネット検索、インタビューなど様々な活動を体験させる。

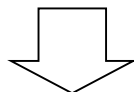


現状分析を受けて、2年間を通して生活科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none">児童が主体的に活動する力を身につけさせたい。そのために、児童の思いや願いを基に単元の活動を組み立てる。関わり合いが生まれるメンバー構成や場の設定などを工夫しながら、活動を広げていく。グループ活動を多く取り入れることで、児童間で協同的な学びが行われるようにしていく。

(6) 音楽科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、感染拡大防止のため鍵盤ハーモニカの学習の開始が遅れている。タンギング・指使いが未習熟の児童が増える可能性がある。 鑑賞では、曲の様子を感じて言葉で交流する活動が深まりきらなかった。児童がもつ語彙が少なく、感じたことを言語化するに至っていない。 リズムを楽しみながら、体を動かし音楽に親しんでいるが、曲の様子を考えて豊かな表現をしている児童は少ない。 どの楽曲でも同じように大きな声で、怒鳴るように歌ってしまう児童もいる。情景を思い浮かべながら歌うまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大の状況下であるため、様々な楽曲の中で階名や音高の感覚を身に付くような活動や運指を楽しめる活動を工夫する。タンギングの仕方を歌詞として口ずさみながら曲に親しむ活動を通して、今後の奏法指導につなげる。 鑑賞の後に、個々の児童の思いを交流する活動を取り入れ、気付きを広げ、さらに楽曲への親しみがもてるようにする。普段の生活から言語で表現する機会を設定する。 言葉の意味を知ったり、曲の情景のイメージを広げたりさせながら曲に親しませる。曲に繰り返し親しませ、歌詞を覚えることで言葉に思いを乗せた表現ができるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は感染拡大防止のためミニキーボードを使用していた。そのため、タンギング、指づかいなどの技能が身につけていない。 どの楽曲でも同じように大きな声で、怒鳴るように歌ってしまう児童もいる。情景を思い浮かべながら歌うまでには至っていない。 単純なリズムを楽器で演奏する活動からグループでの音楽作りに発展することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの学習では、ペアでの練習やグループでの演奏を通して、自分の課題に気付き、主体的に取り組むことができるようにする。 曲を聴いてイメージしたことを言葉や体の動きなどで表現し、曲想を感じ取る活動をする。 メロディや歌詞からイメージを膨らませ、表現を工夫して歌うことができるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 3学級でクラスの人数も少ないこともあり、全体的に落ち着いて学習している。音楽が苦手な児童も粘り強く取り組む姿が見られる。 低学年の時に鍵盤ハーモニカの学習をほとんど行えなかったため、リコーダーにおいてもタンギングがなかなかできるようにならない児童が多い。 音楽を表す言葉の語彙が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く取り組んでいる児童が、できた、わかったという実感を得られるように、個別指導できる時間を確保する。 階名唱をしながら運指をしたり、タンギングと運指を合わせたりする練習を行う。演奏動画を Classroom にのせて、自宅でも学習できるようにする。 児童の発言をいつでも使えるように掲示する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 一クラスの人数が多く、個別対応が必要な児童も多い。音楽を楽しみたいという思いはあるが、自分勝手に振る舞いが多く見られる。 歌声のコントロールができず、リズムや音程を合わせて歌うことができない児童が数名いる。 リコーダーを使った学習が十分に行えていないため、苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が学習課題をもてる導入を工夫を行う。様々な学習活動を用意し、個人に合った活動を児童自身が選べるようにする。 正しい音と自分の歌声を比べて聴いたり、自分の出せる声の高さを調べたり、自分の歌声をよく聴く機会をつくる。 短い曲に複数取り組み、できた体験を積み重ねる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲は高いが、知識・技能の習熟の差が大きい。 出せる歌声の音域が狭く、正しい音程で歌えない児童が数名いる。 昨年度もリコーダーや鍵盤ハーモニカを使った学習をあまり行えていないため、表現に必要な技能が十分に身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が学習課題をもてる導入を工夫を行う。様々な学習活動を用意し、個人に合った活動を児童自身が選べるようにする。 正しい音と自分の歌声を比べて聴いたり、自分の出せる声の高さを調べたり、自分の歌声をよく聴く機会をつくる。 合奏に取り組み、達成感を味わわせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 高学年にありがちな歌声が弱い状態になっている。また、自信がなく自ら発言したり発表したりすることができない児童が多い。 歌声は弱いですが、正しい音程でハーモニーを感じ取りながら合唱することができる。 6年生には音楽を表す言葉の語彙が少なく、自分の思いや意図を言葉で表したり、鑑賞の感想を書いたりすることが苦手な児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> できないことをできるようになりたいと思っている。その意欲を大切にして、Classroomの演奏動画を使って個人で練習を進められるようにしたり、児童同士で教え合ったりできるようにする。 児童の心情に合った選曲をしたり、ハーモニーの美しさを実感させたりして、歌うことを楽しめるようにする。 児童の発言をいつでも使えるように掲示する。



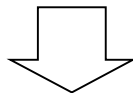
現状分析を受けて、6年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策

- ・すべての児童が主体的に、自分が表したい音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように、音楽の基礎・基本、及び、学びに向かう態度を育てる。
- ・対話的な学びを通して、音楽の諸要素や仕組み、歌詞の内容を手がかりにして曲想を感じ取り、より深く音楽のよさを味わって聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりできるようにする。
- ・児童自身が本時の課題と学習過程を設定できることを目指す。

(7) 図画工作科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 何でも意欲的に、楽しく取り組むことができている。 パス、のり、はさみの正しい使い方を覚え、活用できる児童とそうでない児童がいる。 表現したいことをすぐにイメージできる児童がほとんどであるが、作成のねらいや表現の仕方が分からず、制作が先に進まない児童が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に道具の使い方を振り返り、題材に盛り込む。 作成のねらいや注意ポイント、作成の過程などをより分かりやすく掲示したり、作業過程の数か所で、見本や友達の作品を紹介し合ったりすることで、ねらいに沿った作業が進められるようにする。 児童の実態をきちんとつかみ、個別指導に努める。
2年	<ul style="list-style-type: none"> どの題材でも意欲的に楽しく活動できている。パスや絵の具の扱い方の覚えが早く、創意工夫しながら作品制作に取り組んでいる。友達の作品を見ながら良いところや工夫を見つけ認め合う姿が見られる。 全体指導でねらいや制作手順を理解できない児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚的、視覚的に全体指導を継続して行いつつ、児童の実態に合わせて個別指導を行う。 絵の具の扱い方など、継続的な指導が必要なものはiPadで動画が見られるように支援し、自宅でも繰り返し学べる場づくりをする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んできた技法を活用できるようになった。意欲的に取り組める児童が大半だが、自己肯定感が低く意欲的に取り組めない児童がいる。 制作中や鑑賞の際に、相手が傷つく言葉を言うてしまう場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任や特別支援コーディネーターと連携しつつ、学校全体でソーシャルスキルを高められるようにする。 図工のふわふわ言葉、チクチク言葉を示し、言葉かけに注意するように指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律が整っておらず、授業開始が遅れることが多い。制作活動が始まれば意欲は高いが一部の児童の集中力がもたなかったり、友達のことが気になり手が止まる児童がいたりする。言葉がきつい児童もおり、トラブルになりやすい。 技能は平均だが、創意工夫しながら作品制作に取り組むことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と連携しつつ、授業規律の徹底を行う。 意欲をさらに高められる導入や創意工夫をすると作品が変わるイメージをもたせる。具体的には、昨年度の児童作品画像を見せたり、技能の紹介をICTを活用して紹介したりする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲が非常に高く、初めて扱う道具の習得が早い。共同で作品をつくることを好み、友達と協力しながら取り組むことができる。友達の作品の良いところや工夫を見つけ、認めることができるし、困っている児童がいれば優しく声をかけ手伝ったりアドバイスしたりする姿も見られる。 授業の時間内で作品が仕上がらない児童に対して、個別の対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席表に児童の学びや制作の進み具合を記入している。早めに児童や担任に伝え、制作が遅れないように声かけや支援を行うようにする。 電動糸のこぎりの刃の取り付け方や扱い方を繰り返し学べられるようにiPadで動画が見られるように環境を整える。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲が高く、楽しく制作する様子が見られる。制作時間を意識して取り組める児童が大半だが、自分の技能レベル以上の作品をつくる児童や1対1で支援しながらでないで取り組めない児童や、授業時間内に作品が完成しない児童がいる。 今まで学んできた技法や道具を活用して制作する様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席表に児童の学びや制作の進み具合を記入している。早めに児童や担任に伝え、制作が遅れないように声かけや支援を行うようにする。 制作の時間が長くかかる場合は、授業の流れの表をつくり、児童名札を貼って授業の進捗状況を把握する。



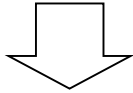
現状分析を受けて、6年間を通して図画工作科で身に付けさせたい力とその方策

「進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする」ために、材料などから発想を広げ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする力を6年間を通して身に付けさせたい力である。そのために、低学年では材料や道具の使い方の基礎基本を押さえ、中学年では自分の表したい表現を見つけ、高学年では今まで身につけた材料や道具を自分の表したい表現に向かって取捨選択をし応用していくように、系統生を重視した年間指導計画を立て、児童の実態に合わせて授業を行っていく。

(8) 家庭科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
5年	<ul style="list-style-type: none">・興味関心が高く、家庭での仕事にも積極的に関わっている児童が多い。・調理実習に意欲的で、事後、家庭でも実践する。・裁縫の経験は少なく、3割が苦手意識をもっているため、全員の「基本的な技能習得」を目指す設定時数を超えてしまう。・家庭生活に生かせるような実習を伴う指導の工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・「教え合い」ができるように座席を工夫する。・苦手意識の高い児童と得意な児童の組み合わせ・進度の速い児童への追加の課題を用意し、自ら工夫して技能の向上を目指せるようにする。・家庭生活を想起させ、学習内容が生活と密接に関係していることに気付かせることで学習への意欲をもたせる。
6年	<ul style="list-style-type: none">・興味関心が高く、学習内容を家庭で生かそうとする児童が多い。・裁縫に関して苦手意識が高く、また、家庭で振り返る機会も少ない。・家庭の仕事に対する取り組み姿勢は個人差が大きく、自分が担う当事者である意識が低い児童がいる。・家庭生活に生かせるような実習を伴う指導の工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・5年での学習を振り返りつつ、必要な技能の習得を目指す。・技能に自信がもてるように丁寧に授業を進める。・進度の速い児童への追加課題を用意し、技術の向上や意欲の維持に繋がるようにする。・学習した技能や知識を生活でどのように活用することができるのかを考えさせる授業展開を考える。

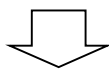


現状分析を受けて、2年間を通して家庭科で身に付けさせたい力とその方策
特に裁縫では、興味はあるが技術が伴わない児童が多い。初めて学習する5年生の段階で基本の技能を身に付け、6年生でその技能を活用して発展的な学習を行うために、苦手意識をもたせない学習内容の工夫を行うことと家庭の中でどのように生かしていくかを考えさせることが大切である。「家庭の仕事は家族みんなが当たり前に行うものである」という意識をもたせ、自分から進んで家庭での役割を担っていこうとする態度を学習する中で培っていく。

(9) 体育科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・体力が低下している。 ・体の動きもぎこちない児童が多い。 ・まっすぐに並んだり、人との適度な間隔をとったり、スピードの調整をしながら、動くことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい場の設定を心がける。シンプルで運動量がしっかりと確保されるような場の設定をする。 ・多様な動きを作る運動遊びを取り入れる。学習過程を工夫し、1単位時間で活動を組み合わせ、単元を柔軟に横断させて様々な動きができるよう工夫する。 ・具体的な場面で、安全でスムーズな動きにつながる指導をその都度声かけたり、場や活動を設定したりしてスモールステップで学びが積み上げられるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の運動経験の差により、苦手意識がさらに大きくなる児童がいる。 ・体の動かし方の工夫を考え取り入れられるようになった。 ・周りを見て距離をとるなど、安全に運動する感覚が未熟な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、「その時間のめあて」を指導することで、ねらいに向かって活動し、勝敗や結果にこだわらず、自分自身の技能の成長に目を向けさせるようにする。 ・学習カードを活用し、体の動かし方・安全な運動のしかたなどを、授業の終わりに振り返り、自分の課題に気づき次の学習に生かせるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで楽しく運動に取り組んでいる。 ・活動の中で工夫やコツを見だし、友達に伝えることができている。 ・準備や片付けなどに対する意識の低い児童がいる。 ・日常の運動経験の差が技能の差として現れてきている。 ・きまりやルールに対しての意識が低い。 ・めあてに対する意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初に学習の流れを説明し、毎時間のめあてを明示し、振り返りまでをきちんと行うことで、めあてに沿った活動の重要性に気付かせる。 ・運動の苦手や得意に関わらずみんなが楽しめるものになるようわかりやすいルールで行い、チームごとに確認する機会をつくる。 ・一人一役準備や片付けを行うようにし、みんなで学習する良さを味わえるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・集合・整列、話を聞く、安全な活動、用具の準備など、意識の低い児童がいる。 ・鬼ごっこなどは楽しそうに取り組むことができるが、苦手な運動になると意欲が持続しない児童がいる。 ・体力の差が大きく、技能が高い児童が中心となって活動してしまうことがある。 ・片付け、着替えまで素早く行うことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動、安全面については活動の前後に必ず確認する。 ・「みんなが楽しい体育の学習」を目指し、技能の高い児童だけが活躍するのではないことを伝える。 ・みんなで楽しむためにどうしたら良いかを考えることも学習であることを意識させる。 ・運動が苦手な児童も楽しめるよう、場の工夫や友達との学び合いの設定などを行う。 ・片付け、着替えまで素早く行うよう日々指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業を楽しみにしている児童も、休み時間となると室内での活動を好む傾向がある。 ・運動能力は総じて低い。 ・安全に運動することや勝敗を受け入れ気持ちよく運動することが苦手な児童がいる。 ・技能の教え合いや声かけが足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量を増やすためのルールや時間設定を行う。 ・毎時間の導入で基礎基本の動きを取り入れる。 ・集団行動、安全面については活動の前後に必ず確認する。 ・友達と教え合う際の視点をもたせ、課題解決学習をより充実させる。 ・よりよいグループを教師が意図的に編成する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に運動しようとする意識の低い児童がいる ・用具の扱い方や準備運動への意欲が低い児童がいる ・「運動（だけ）したい」という意識の児童がいるため、片付けまで気持ちが向かないことがある ・団体種目（ボール運動系）、個人種目（器械運動系）のどちらも技能の教え合いや声かけが足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に運動や準備を行うことも技能の一つであるということを伝え続けていく。 ・片付けをすることにも価値を感じられるように、声掛けをしたり、意欲的に片付けをしている児童を評価するようにしていく。 ・ICTの活用をして、技能面の研究をすることで、観察の視点を与え、児童が積極的に声掛けをできるようにする。

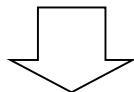


現状分析を受けて、6年間を通して体育科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none"> ・特に低学年段階から遊びの中で体を楽しく動かす経験を積み重ね、運動に抵抗感を抱かせないようにする必要がある。 ・全児童が運動に主体的に取り組めるようにしていく。また高学年になるにつれて技能面の差が大きくなっている。そのために技能や運動経験に関わらず、自己や小集団の課題を見つけ、課題解決を行いながらスモールステップで学習を進めていく。また日常生活にも取り入れられる補助運動を提示していくことで運動経験を増やしていく。 ・主体的に学びに向かう態度を身につけさせていく。集合・整列・挨拶などの学習規律に加えて準備・片付けにも意識が向かうよう指導していく。

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組んでいる。活動の中で、声を出すことや動作などの行為を楽しんでいる。 ・児童の能力の差はほとんどない。 ・ALT との打ち合わせの時間がかなり少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとの大まかな授業計画を年度初めに作成する。 ・ALT と担任の役割を分担し、指導を明確にする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題(Let's Listen)や、友達同士の交流(Activity)には、意欲的に取り組んでいる。 ・前に出ての発表には、まだ抵抗があるようだ。 ・Activityの際に、どのように言えばよいのか迷っている姿も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、興味や関心をもって学習に取り組めるよう、具体物や映像での提示を行っていく。 ・必ず会話文を板書し、児童同士ではなく担任と児童のやりとりすることで支援を行いながら発表させる。 ・担任とALT が繰り返し会話の例示を行い、板書を加えることで「何を聞き、何を答えるのか」を明確にする。活動に入る前に、全体で復唱する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にチャンツやソングを歌い、英語を口にしていく。 ・アルファベットが苦手で、自分の名前も書けない児童が多数いる。 ・リスニングの能力は高いが、音とその文字表記が結び付いていない。 ・単元が終わると学習した定型文を忘れてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やゲームを多く取り入れ、引き続き楽しい授業を行っていく。 ・聞いて口にする学習活動だけでなく、書き写す活動も定期的に行い、文字に慣れさせる。 ・これまでに学習したフレーズを織り交ぜながら、スモールトークを行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットや単語が書けない読めない、書く位置が分からない児童がいる ・聞いた音の繰り返しはできるが、英文を読んだり書いたりするのは難しい児童がいる ・スムーズに会話ができる児童と同じフレーズでも毎回聞き間違える児童と、能力の差が出ている ・基本的な海外の知識（地理・国旗・遺産 等）がそもそもなく、意欲に繋がりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・4線を意識することを今後も伝えていく。 ・英文を書くときにICTの活用をして手本を見せたり、板書で丁寧に書き方を扱ったりする。 ・picture dictionary を活用して単語に触れる機会を確実にとり、単語の知識を増やす。 ・外国語への知識もそうだが、興味関心が薄い現状があるため、授業のなかで多様な文化にも触れて、興味をもてるようにする。

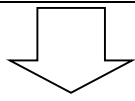


現状分析を受けて、外国語活動・外国語科で身に付けさせたい力とその方策
<p>「外国語を使ってコミュニケーションをとること」が最も必要な力であり、会話することに重点を置いた指導がしたい。また、そのためには文法を意識させず、「正しい発音の仕方」を単語として、または、一文としてALT から教わり、流暢に話せる児童を育てたい。それと同時に書くことも重要視したいが、アルファベットの書き方が定着がしてなかったり、その音が定着していないので、まずは3年生の段階でローマ字を扱った際に確実に定着を目指す。そしてそのアルファベットがもつ音にも中学年の段階で大切にしていこう。そうすることで、高学年ではスムーズに書く活動につなげていく。</p>
ALTの活用の工夫
<ol style="list-style-type: none"> ①ALT との指導に向けた打ち合わせの時間を適切にとる。 ②他校での実践例を提示してもらうなどして、教材研究の時間を短縮する。 ③正しい発音（英語固有の音声）の見本提示し、児童が英単語の音声に慣れ親しめるようにしたり、英語の使い方として正しい表現を教えてもらったりする。また、児童が言い表したい言葉が分からない時に自由に聞けるようにする。 ④Small talk の際にALT を活用し、担任は児童と、ALT をつなげる役割を担い、スムーズな会話ができるようにサポートする。それにより、児童が英語を用いた即興的な会話を可能にし、外国語に対する興味や関心を高める。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
全学年をとおして	【児童の実態】 <ul style="list-style-type: none">・道徳科の内容を自分とかけ離れた内容に感じてしまうことがある。そのため、自分にも起こりうる話や、自分に関係のある話だと捉えることに苦手を感じる児童がいる。・ワークシートに、自分の素直な考えを書けなかったり、自分の経験を想起できなかったりする児童がいる。・他教科に比べて道徳科への意欲が低い児童がいる 【教師】 <ul style="list-style-type: none">・ワークシートが校内で統一されていない。児童の実態によって変えられる良さがあるが、今後は統一することで、書き方に慣れてたり、考え方に深まりが出たり管理の仕方も揃うので、児童にとって取り組みやすいものになると考える。・評価の為にワークシートになりがちであり、自己の振り返りではなく、決意表明をさせる授業も散見される	<ul style="list-style-type: none">・児童自身が「自分のこと」として教材と関わるために、教師のできる工夫を行う。具体的には「教材提示の工夫」を充実させることで、児童の自我関与を促す。・本音で語り合える（子供同士も教員と子供も）環境を整える。そのために授業の中では「価値理解」に終始するのではなく、「人間理解」を扱うことも大切にする。・校内で ICT の活用についての理解を深める。そして道徳科の学習の中で効果的に活用できるようにする。・自己の振り返りでは、必ずしも書く活動をするのではなく、場合によっては話し合いを用いる。



現状分析を受けて、6年間を通して特別の教科 道徳で身に付けさせたい力とその方策
道徳科の内容を「これは話だからなあ」「実際には無いよね」と捉える児童がいるという現状から「自分のこと」として教材に自我関与できる授業にする。そして、道徳科から進んで学ぼうとする姿勢を身につけさせたい。そのために具体的には「教材提示の工夫」を充実させることで、児童の自我関与を促す。また、本音で語り合える（子供同士も教員と子供も）環境を整える。そのために授業の中では「価値理解」に終始するのではなく、「人間理解」を扱うことも大切にする。